

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自立した社会人」の育成をめざす。

そのため、夜間定時制、工科高校総合学科及び地域の特性を生かして、

1. ものづくりを核に据えて基本的な知識・技能の定着を図りつつ、資格取得等に挑戦させて、自己実現へと導く。
2. 「働きながら学ぶ」ことを大切にして、基本的な生活習慣・社会規範の確立と自らの進路決定に前向きに取り組む態度を育てる。
3. 地域と連携し、地域の教育力を最大限に生かした教育活動を通して、社会の中で生きる自信・豊かな心を養う。

2 中期的目標

1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成

(1) 「わかる授業」による基礎学力の育成をめざす。

ア. 授業改善、公開授業・研究授業等の取り組みを推進する。

(※自己診断：「授業はわかりやすくて楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」 H25[60%台後半]→H28[80%])

(※授業評価：「興味・関心をもてた」「知識・技能が身についた」 H25[70%]→H28[80%超])

イ. 技能講習や検定等を活用した学習意欲の向上を図る。(※受検者数、合格者数を H28 には H25 比の 2 倍へ)

(2) 「働きながら学ぶ」ことを通して学校生活や社会生活への適応を図る。

ア. ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と連携し、未就労者ゼロをめざす。

イ. 将来の職業生活を意識させ、基本的な生活習慣・態度を身に付けさせる。

(※進級・卒業率：H25[70%]→H28[80%以上]をめざす。)

2 キャリア教育の推進

(1) 地域企業等と連携した「ワーキングスペース」を活用したキャリア教育プログラムの推進

ア. アルバイト等に就けない生徒への就労体験を行う。※当該生徒の 100%をめざして継続する。

イ. 企業、大学等との連携した就労体験活動（共同製作、町のイベント企画・参加等）を実施する。

(2) 校内組織の連携強化。

ア. 分掌、担任団等との会議を通じて、生徒個々に応じたキャリア教育を推進する。

イ. 保護者、外部機関等との連携を深めるために、定期的な連絡会議、懇談を実施する。

(※アルバイト等の就労体験率：H28[全生徒の 95%以上]、学校斡旋就職率：H28[就職希望者の 90%]をめざす。)

3 生徒理解の促進と自尊感情を高める取組みの強化

(1) 生徒の活動や学習成果等の情報発信の強化

ア. 生徒会行事、生徒の自主活動や地域連携活動の継続・発展。

(※各種発表会、イベント等への参加・出展数：継続・発展)

イ. 部活動の活性化。

ウ. ホームページ等のさらなる充実。

(2) 生徒支援委員会（仮称）を立ち上げ、機能させる

ア. 人権・教育相談・保健室の連携等を強化して、生徒の特性に応じた的確な生徒指導を進める。

(※自己診断：「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」 H25[50%]→H28[70%超])

イ. 生徒理解のための教員研修を充実させる。

4 学校全体の指導力の向上

上記 1～3 の新たな教育活動に挑戦し、継続、発展させることを通じて、学校全体の指導力の向上、次世代の教員の育成をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(めざす学校像)</p> <p>生徒・保護者からは、これまで同様、本校を選択した理由の多くが、高卒資格を得ること並びに就職するためであることから、将来の進路や生き方についての指導について肯定的な評価を得ることができた。[生徒 65%以上、保護者 100%]。また、「自立した社会人」として、社会的な規範やルールを身に付けさせる取組[教員 96%が肯定]が課題である。</p> <p>(授業研究)</p> <p>授業がわかりやすくて楽しい(楽しく進めている)[生徒 59%、教員 96%]、教え方を工夫している先生が多い[生徒 55%、教員 100%]と、生徒と教員とのギャップが顕著である。さらに、視聴覚機器やコンピュータ等の活用[肯定：生徒 57%、教員 54%]、「自立した社会人」となるための基礎学力の習得[教員 79%が肯定]に向けた授業の工夫や研修が課題である。</p> <p>(生徒指導・支援)</p> <p>学校生活についての教員の指導に対して肯定的に理解(共感)している生徒・保護者の割合は[生徒 61%、保護者 100%]。教員は、生徒の話をよく聞いてくれる[肯定 70%]、担任以外にも気軽に相談できる先生がいる[肯定 67%]であり、カウンセリングマインドをもちつつ、社会人としての規範・マナー等を粘り強く指導していくことが必要である。</p> <p>(学校評価・改善)</p> <p>教育活動について教職員で日常的に話し合っている[教員 67%]、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている[教員 71%]に留まっている。教育活動のコンセンサスづくりや改善活動がさらに必要である。</p>	<p>○取組内容に対する自己評価の適切性 3.9/4 点満点 (委員の平均)</p> <p>○取り組みに対する提言等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトの斡旋にかかわって、仕事をする中で社会人としての自覚・態度とともに責任をもつことを身に付けさせて、人として成長させてほしい。 ・生徒に達成感を体験させる取り組み、自立できる気持ちを育てる取り組みをお願いしたい。 ・生徒は、頭で分かるだけでなく、事業を通じて先生、生徒、市民の方々とコミュニケーションをとることが、一番、実社会で成長すると考える。是非、これからも学校内だけで物事を解決するのではなく、社会と共に頑張る取り組みを行っていただきたい。 ・努力目標、目標に向けての取り組みは評価できる。全員の達成は本来難しいが、ベクトルを合わせて、あきらめずに取り組んでほしい。 ・就労体験率 90%はすばらしい。 ・「わかる授業」にかかわって、学力格差や生徒特性の多様化に伴い、「基礎学力」に対する教員間の共通理解を図るための話し合い、生徒の自尊感情やモチベーションを考えた指導・支援について、研究、研修をしてほしい。 ・「ゆめ・チャレ」等の生徒の自尊感情を高める工夫がなされている。次年度の課題はすそ野を広げること。 ・保護者として、学校・先生の取組に対する考えが分かってよかった。文化祭などの行事への保護者の参加が少ない。見に来てもらえるような工夫・保護者を巻き込むイベントなどがあるとよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成	(1)「わかる授業」による基礎学力の育成をめざす。 (2)「働きながら学ぶ」ことを通じて学校生活や社会生活への適応を図る。	ア. ICT 機器、資料を活用するなどして、「わかる授業」を工夫する。 イ. 技能講習等の資格取得を積極的に勧め、学習意欲の向上を図る。 ア. 職場見学、職業体験、ハローワークへの付添等を通じて、「働くこと」を体験させる。 イ. 当番、巡回、教科指導等での声掛けを積極的に行い、挨拶・言葉遣い、時間管理などの基本を指導する。 ウ. 保護者等との連携を密にして、出席率の向上を図る。	ア. 授業アンケートの「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」で75% (H25は70%) ア. アルバイト等の経験者数、1, 2年生でアルバイト等就労体験率90% (H25は85%) イ. 生徒の態度の変容 ウ. 出席率、進級・卒業率。1年生進級率60%以上、学校全体70%を維持し、さらに向上をめざす。	ア. 授業アンケート「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」共に79% (◎) ア. WS事業の体験を含め就労体験率90%達成 (○) イ. 挨拶できる生徒が増加し、全校集会への参加者数や態度の改善 (○) ウ. 1月段階では達成の見込み。学年末に向けた指導を継続中。1年生進級率65%、卒業率74% (○)
2 キャリア教育の推進	(1) 地域企業等と連携した「ワーキングスペース」(学校経営推進費事業)等を活用したキャリア教育プログラムの推進 (2) 校内組織の連携強化。	ア. 土曜講座「堺学」や地域企業等と連携した体験活動(「ゆめ・チャレンジ『ワーキングスペース』事業(以下、WS事業)」)を通して、生徒の自己有用感、勤労観、コミュニケーション能力を高める。 イ. 地域企業等と連携した「WS事業」を充実させ、未就労生徒及び多様な生徒に応じた就労経験機会の確保と卒業後の進路実現を支援する。 ア. 生徒の進路実現を中核に、教育活動や業務等の整理や摺合せを行う。 イ. 進路部と担任団等との情報共有・連携	ア. 未就労生徒の90%参加。生徒アンケートの「自己肯定感」「前に踏み出す力」を実施前比20%増。 イ. 1, 2年生でアルバイト等就労体験率90% (H25:85%) 学校全体で90%。学校斡旋就職希望者の就職率90%以上 (H25は87%) ア. 会議の定例化 イ. 進路通信(10回程度)	ア. 未就労生徒の参加率60%、生徒の自己肯定感や「前に踏み出す力」は15%増。(△) イ. 就労体験率90%、「堺学」授業以外に、WS事業を活用して、夏期休業期間等に地域企業と連携した実習を実施できた(13職種・延べ87人参加)。学校斡旋就職希望者22名の内定率100%[H25:14人87%] (◎) ア. 生徒の進路実現を念頭に置いた取組と情報発信(新聞報道)ができた。更なる充実が必要。(○) イ. 進路通信5回 (△)
3 生徒理解と自尊感情を高める取組みの強化	(1) 生徒の活動や学習成果等の情報発信の強化 (2) 生徒支援委員会(仮称)を立ち上げ、機能させる	ア. 授業や課外活動の成果を秋季発表大会、大阪府産業教育フェア、学校説明会・体験入学及び学校ホームページ等を積極的に活用する。 イ. 自尊感情や自校愛を高めるため、生徒会活動・部活動・地域貢献・東北支援等の活動を維持・充実させる。 ア. 定例会議及び高校生活支援カードの整備による情報共有や指導・支援方針の摺合せを行う。 イ. 生徒理解やソーシャルスキルトレーニングなどの職員研修を行う。	ア. 地域の評判。表彰等の件数5件。 イ. 入部者数年間50%キープ。大会等への参加5回以上。 ア. 会議の月例化、取組み内容。 イ. 校内研修3回程度	ア. 実践的防災教育総合支援事業指定及び釜石市長からの感謝状、本校取組の新聞報道3件、実定総体テニス3位。(◎) イ. 部活動:入部者46%、野球部、バスケット部等大会出場5回。秋季発表・産フェ出展。(○) ア. 会議等、情報共有の流れができたので、より実効性の高い指導に結びつくよう充実必要。(△) イ. SCや外部人材を活用した研修3回実施、さらに実践の充実につなげることが必要。(△)
4 学校全体の指導力の向上	OJTと外部評価の活用。	上記の新たな教育活動に挑戦し、継続、発展させることを通じて、学校全体の指導力の向上、次世代の教員の育成をめざす。	取組みに対する学校協議会や関係者の外部評価(肯定70%以上)	校内外の活動に参画して、生徒の成長を多面的に実感できる取り組みができた。目標に向けての取組と自己評価について適切であると評価いただいた。(○)